

# 眼科

## (1) 一般目標(GIO)

- ① 厚生労働省卒後臨床研修目標の達成に努める。
- ② 臨床医として必要な眼科の基礎的知識と技術を習得し、実践する。
- ③ 全身性疾患と眼疾患と関わりの重要性を認識し、理解する。

## (2) 行動目標(SBO)

眼科の具体的な行動目標は「行動目標と評価」の項を参照。

- ① 比較的良く見られる眼科的症状(視力障害・視野狭窄・結膜充血)についての鑑別診断、初期治療を行う能力を身につける。
- ② 比較的良く見られる眼科的疾患(屈折異常・角結膜炎・白内障・緑内障)を受け持ち、自ら検査・診断・治療方針について検討し参加する。
- ③ 全身性疾患(糖尿病・高血圧・動脈硬化・その他)による眼底変化を自ら観察し診断する。
- ④ その色

## (3) 研修スケジュール

必修科目として視力検査、眼圧検査、視野検査などの理論や方法を学んだ後、指導医に付いて実際の患者の問診の取り方から診療の流れなどを見学する。その後、外来にて細隙灯顕微鏡を使用して結膜炎・角膜疾患などの前眼部疾患をはじめ白内障、緑内障、糖尿病網膜症などの主たる疾患の所見や診断について習得する。

また、様々な眼底疾患の所見や特徴、治療については眼底カメラや蛍光眼底検査、OCT(光干渉断層計)などの検査結果を基に指導医に付いて習得する。

手術に関しては、白内障手術を中心に網膜硝子体手術も含め、その手技を手術室のテレビモニターを見ながら解説を受けた後に、実際に手術助手をしながら学習する。

当科の最大の特徴は周産期センターにおける未熟児診療である。多くの未熟児(1000g未満の超低出生体重児も多い)が入院しており、週1~2回の定期診察のほか重症例に対するレーザー治療も積極的に行っている。また、未熟児用の眼底カメラも備えており、その診断や治療について指導医の解説を通して学んでいく。